

厚生労働行政推進調査事業費
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)
分担研究報告書

国際ガバナンス会議での効果的・戦略的介入を行うための人材育成プログラムの開発

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	若林 真美	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	坂元 晴香	東京女子医科大学 衛生学公衆衛生学講座 准教授
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、国際保健が直面する新たなテーマを取り入れた教材を開発するとともに、世界保健総会等において、様々な立場を代表するステークホルダーの意見を議長として集約し、合意形成をリードしていくためのプログラムを開発することを目的とした。

令和5年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、国内外の該当領域の専門家を招聘し、対面を基本とするハイブリッド形式で講義と演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の概要や外交技術に関する講義に加えて、演習テーマに関連した保健人材の国際採用についての講義を加え、講義と演習が有機的に連動するようなプログラム構成とした。WHO執行理事会での介入を模した演習では、今年度新たに作成した「保健人材の国際採用」をテーマとする架空シナリオに基づき、会議文書の読解、対処方針の検討、加盟国との交渉と会議での発言の演習を行い、専門家からのフィードバックを得た。参加者は、行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者15名が集まった。ワークショップ終了後のアンケートか

らは、本ワークショップが参加者のグローバルヘルス外交交渉におけるスキル向上に有用であったことが示された。

議長候補者育成のためのプログラム開発では、世界保健総会において議長の采配ぶりが評判となったセッションのうち、分担研究者の中谷が議長を務めたHIV決議に関する7セッションを選び、世界保健総会の動画からAIによるテキスト文字起こしとスクリプト作成を行った。また、質的分析ソフトウェアを用いて対立議題への対処方法や、合意形成を促すパターンを抽出するための研究デザインを検討した。

A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張し合意形成を行うためには、そのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、国際秩序や多国間主義の危機、地政学的パワーシフトなどが国際保健外交にも影響を与えている中、国際保健分野の会議、とりわけ世界保健総会・執行理事会等のガバナンス会議において、世界が直面する新たな課題を理解し、効果的かつ戦略的な関与ができる人材を育成するための研修プログラムの開発を目的としている。

本研究は、2つのコンポーネントを軸として進めている。1つ目は、模擬国際会議等を通じた効果的・戦略的介入のための人材育成研修であり、2つ目は国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材育成に向けたプログラム開発である。

B. 研究方法

1. 模擬国際会議等を通じた効果的・戦略的介入のための人材育成研修

令和5年度は、世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健分野の課題における議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張できる人材を育成するため、グローバ

ルヘルス外交に特化したワークショップを開催した。

対象は行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが、国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者を対象とする。また関連領域の大学院生、大学生および大学教員を含む20～30名を上限とするオブザーバーも対象とした。

ワークショップは以下7点を目標に、世界保健機関、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いて、パブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成した。

- (1) 国際機関（国連・国連の専門機関・パートナーシップ）におけるガバナンスの意味を理解する。
- (2) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (3) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (4) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる手法を習得する。
- (6) 国際益と国益を調和させる姿勢を涵養する。

(7) 国際会議の暗黙知を共有する。

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得た。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図った。

2. 国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材開発

令和5年度は、世界保健総会等において、様々な立場を代表するステークホルダーの意見を議長として集約し、合意形成をリードしていくための人材育成プログラム開発に向けて、国際会議において過去に評判の高かった議長の采配ぶりを可視化するため、世界保健総会等の動画からナラティブを抽出した。また、過去の議長経験者へのインタビューを計画し、その準備を行った。

(倫理面への配慮)

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外である。

C. 研究結果

1. 模擬国際会議等を通じた効果的・戦略的介入のための人材育成研修

令和5年12月16日～17日の二日間にわたり、講義と演習を交えたワークショップを開催した。なお、今年度の講義は、これまでも行ってきたグローバルヘルス外交の概論や実践に関する講義に加えて、午後に行われた演習のテーマに関連した講義を行い、講義と演習が有機的につながるよう工夫をした。さらに、令和5年は、我が国がG7サ

ミットやG7保健大臣会合での議長を務め、グローバルヘルス領域の議論をリードする成果を上げたことから、合意文書作成に至る経緯や交渉経験について、政府担当者から直に学ぶ講義も組み込んだ。また、講義、演習ともにオンライン配信をし、オブザーバーや海外の講師陣も参加できるようにした(プログラム詳細は表1「Global Health Diplomacy Workshop (2023): Course Schedule Overview」を参照)。参加者は若手を中心とした15名、オブザーバーは18名であった(アンケート回答者のみの構成を表2で示す)。

対面式演習では、世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、本ロールプレイ演習のために用意したWHO執行理事会における架空の議題をテーマに模擬WHO執行理事会方式で介入の演習を実施した。具体的には、今年度は現代のグローバルヘルス外交において重要課題の一つである「保健人材の国際採用」をテーマにした架空のシナリオを作成し、参加者は、数名ずつのチームに分かれ各国の代表団(Mapleland、Vikingen、Zamba、Marcosiaの4か国)として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。また、国際経験豊富なファシリテーター4名が、各国の演習において随時きめ細やかなアドバイスを提供した。ファシリテーターのうち2名は、今年度の世界保健総会(令和5年4月20日～26日)に参加し、対処方針作成や技術委員会での介入を行い、ワークショップでの教育指導スキル向上を図っている。

ワークショップ終了時評価アンケート調査(図1.2)では、大半の参加者から「難しかった」、「普通」と回答が得られた。各セッションにおいて、初日と比べて二日目では「とても難しい」と回答したものが減り課題理解が進んだことが確認された。また参加度(図2)についても、多くの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。また本ワークショップから得られた、国際会議で効果的に介入するために必要なことに関する気づきについては、「入念な準備」「自国の主張だけでなく他国との妥協点を見つけることの重要性」などが多く見られた(表3)。

改善点(表4)としては、事前準備や演習時間において時間的制約が大きいという指摘があった。今年度は参加者同士のネットワークを図るため、ワークショップ終了後に交流会を設け、好評を博している。

ワークショップ全体に関するコメント(表5)からは、多くの学びがあったというコメントとともに、過去のワークショップよりも臨場感が増していたとのコメントも挙げられ、本ワークショップが参加者のグローバルヘルス外交交渉におけるスキル向上に有用であったことが示された。

さらに、本ワークショップで開発したコンテンツは国内のアカデミアにおいて発展的活用が進んでおり、令和5年度は長崎大学プラネタリーヘルス学環博士課程学生を対象としたグローバルヘルス外交コースにおいて、講義と事例教材を交えた模擬WHO執行理事会形式で計4日間の授業を行った。

なお、今年度よりストックホルムスクールオブエコノミクス、オックスフォード大

学、ジュネーブ国際開発研究所を中心とするグローバルヘルス外交プログラムネットワークが開始し、本研究班も立ち上げ時からネットワークに参画するとともに、研究班が培ってきた研修カリキュラムをネットワーク内で共有しており、今後各国の研修プログラムに関し相互協力を行うことを視野に入れた討議を重ねている。

2. 国際ガバナンス会議において合意形成をリードする議長候補者等の人材開発

令和5年度は、世界保健総会のみならず、その他の国際会議における議長候補者育成プログラム開発に向けて、国際会議における議長経験者への聞き取りを行った。その結果、1)議長候補者となる人材は現在のワークショップ形式では拘束時間が長く実現が難しいため、個別研修の一部に議長スキル習得のためのプログラムを挿入する形が望ましい、2)国際会議において過去に評判の高かった議長の采配ぶりを可視化するため、世界保健総会等の動画からナラティブを抽出し、ノウハウをまとめることが有用、3)国内外の議長経験者に対しオーラルヒストリー形式のインタビューを実施し、議事運営の主要なコツ、アドバイスを含めた経験談を構造化し取りまとめる必要がある、という3点が課題として挙げられた。

今年度は、世界保健総会において議長の采配ぶりが評判となったセッションのうち、分担研究者の中谷が議長を務めたHIV決議に関する7セッションを選び、世界保健総会の動画からAIによるテキスト文字起こしとスクリプト作成を行った。また、質的分析ソフトウェアを用いて対立議題への対処方法や、合意形成を促すパターンを抽出す

るための研究デザインを検討した。

D. 考察

今年度は、対面講義・演習を原則としながらも、遠方の講師やオブザーバーも参加できるというオンラインのメリットも活かしたハイブリッド形式によるワークショップ実施した。今年度新たに作成した「保健人材の国際採用」をテーマとした演習シナリオは、地政学的変化が顕在化したポストコロナ時代におけるグローバルヘルス外交の実際を体験するにあたり有用な教材であった。

本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して実施していく予定である。また、議長候補者等の人材育成に向けたプログラム開発では、今後分析対象の世界保健総会セッションを拡大し、AIによるスクリプト作成と質的分析ソフトウェアを用いた解析を進め、国際会議における議長のリーダーシップについての知見をまとめていく予定である。さらに令和6年度以降は、議長経験者に対し、班員複数名でオーラルヒストリー形式のインタビューを実施していく予定である。

E. 研究発表

1. 論文発表

梅田珠実他（翻訳監修）「グローバルヘルス外交の手引：健康の向上－グローバルな連帯の強化－公平性の推進」（原題：A Guide to Global Health Diplomacy: Better

health – improved global solidarity – more equity)

https://www.ighp.ncgm.go.jp/core/pdf/GHC_light.pdf

2. 学会発表

1) 【ブース出展と冊子配布】「グローバルヘルス外交の手引：健康の向上－グローバルな連帯の強化－公平性の推進」（原題：A Guide to Global Health Diplomacy: Better health – improved global solidarity – more equity）.日本国際保健医療学会第37回東日本地方会. 2023年7月1日. 東京.

2) 【ブース出展と冊子配布】「グローバルヘルス外交の手引：健康の向上－グローバルな連帯の強化－公平性の推進」（原題：A Guide to Global Health Diplomacy: Better health – improved global solidarity – more equity）. 第38回日本国際保健医療学会学術大会グローバルヘルス合同大会. 2023年11月24日～26日. 東京.

F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

表1. Global Health Diplomacy Workshop (2023): Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 16 December 2023		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	Sign in on zoom online	
9:00-9:30	Self-introduction and course objectives	Prof. Hiroyasu Iso (NCGM)
9:30-10:15	*World Health Organization and its role in global health governance (lecture) *Q&A in Japanese	Prof. Hiroki Nakatani (NCGM)
10:15-10:30	Break	
10:30-11:10	*Preparing for participation in an intergovernmental meeting (lecture) *Q&A in Japanese	Prof. Kazuaki Miyagishima (France)
	*Intervention: dos and don'ts *Q&A in Japanese	Dr. Haruka Sakamoto (Tokyo Women's Medical University)
11:10-11:50	*WHO Global Code of Practice on International Recruitment of Health Personnel *Q&A in Japanese	Dr. Shinjiro Nozaki (WHO/WPRO)
11:50-13:00	Lunch	Please bring your own lunch
13:00-13:15	Briefing on role-play sessions	Dr. Tamami Umeda
13:15-14:15	Team deliberation (60 min)	Group facilitators
14:15-14:45	*Mock-up Session (Plenary #1) (30 min)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
14:45-15:15	Bilateral meetings (30 min)	Group facilitators
15:15-17:00	*Mock-up Session (Working Group #1) Break during the session (10 min)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons

Day 2, Sunday, 17 December 2022		
Time	Session Title	Speakers
9:30-9:40	Recap of Day 1	Dr. Eiko Saito (NCGM)
9:40-10:20	*Real-life negotiations: Case studies of difficult negotiations (lecture) *Q&A in Japanese/English	Dr. Satoshi Ezoie (MOFA Japan)
10:20-10:30	Break	
10:30-11:30	*Introduction to negotiations (lecture) *Q&A in English	Prof. Suwit Wibulpolprasert Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
11:30-11:40	Break	
11:40-12:20	Japan's leadership and experience in G7 Hiroshima Summit and G7 Health Ministers' Meeting (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Tomoko Onoda (WHO Cambodia)
12:20-14:50	Working lunch Team deliberation Bilateral meetings	Group facilitators
14:50-15:00	Break	
15:00-15:45	*Mock-up Session (Working Group #2)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons
15:45-16:00	Team deliberation	
16:00-16:45	*Mock-up Session (Plenary #2)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:45-17:00	Wrap-up Feedback Survey Closing Remarks	Wrap-up (Dr. Umeda) Feedback Survey (Dr. Saito) Closing (Prof. Iso)

表2. 参加者/オブザーバー属性(回答アンケート)

		Number	Percent
Age range	20-29	7	30.4
	30-39	9	39.1
	40-49	4	17.4
	50-59	1	4.3
	60 and over	2	8.7
Sex	Male	9	39.1
	Female	14	60.9
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	4	17.4
	No experience	19	82.6

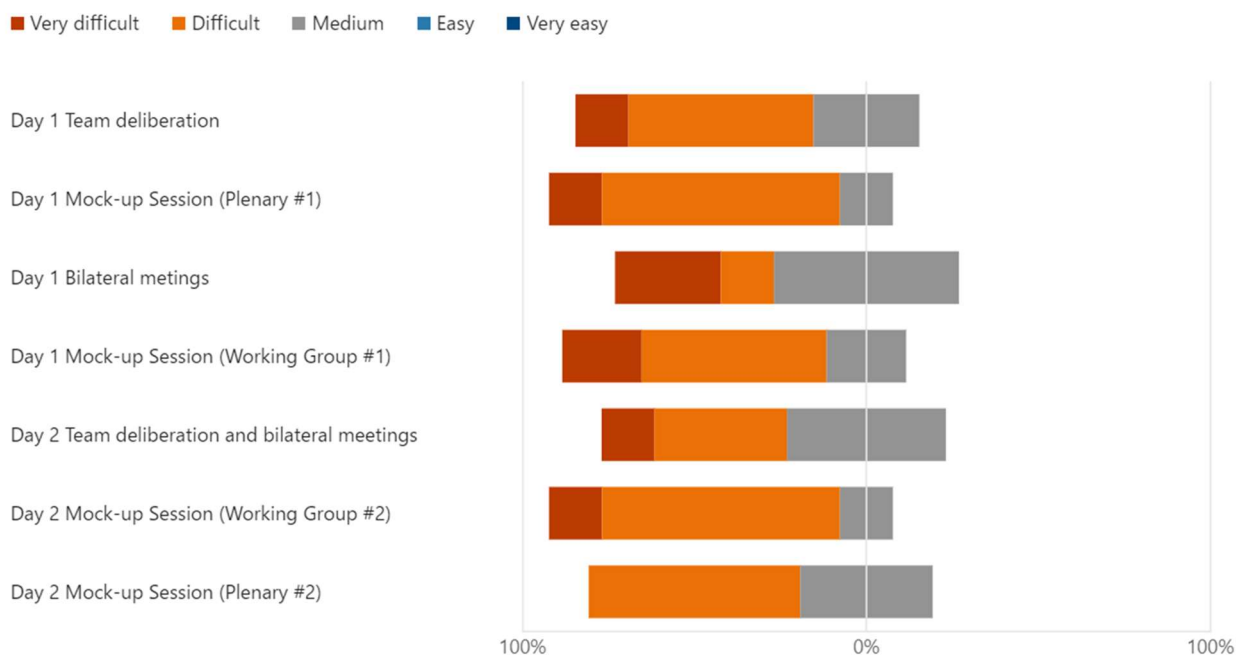


図1. 各セッション難易度(演習参加者のみ回答)

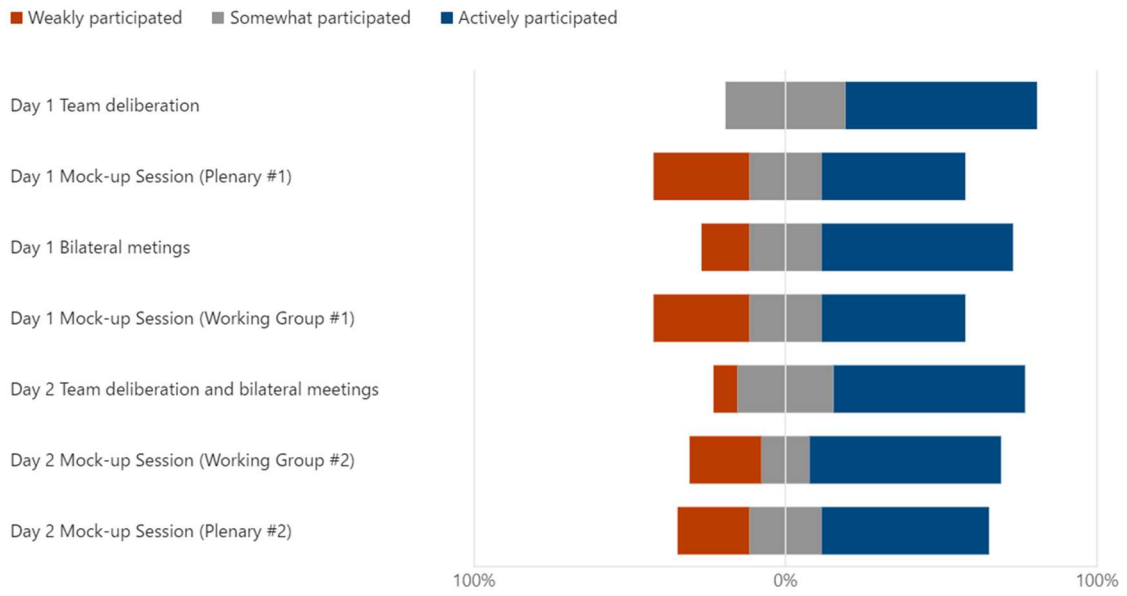


図 2. 各セッション参加度(演習参加者のみ回答)

表 3. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから得られた気づきについて(自由回答)

コメント(自由回答)

自国の主張をある程度入れることが効果的であること。

The importance of being constructive and concise. To have a BATNA and leave room for negotioation.

自国の主張だけを進めるのではなく、他国との妥協点を、いかに上手く見つけることの重要性に気づきました。またそのためにも、事務局側の入念な準備が大切だということに改めて感じる機会となりました。

Negotiating strategy including compromises

入念な準備 こちらの主張が通らなかったときの妥当な妥協案 相手を納得させる交渉

交渉の中で自国のポジションを忘れることなく、かつ他国の立場に配慮しながら交渉することが重要と感じました。

これまで **Negotiation** に関して深く学んだ事がなく、国際会議の場や前後での他国とのコミュニケーションの重要性を学んだ。

会議の展開を鑑みて、どのように意見を述べるのか、柔軟性を示すのか、表現やタイミングもとても大事だと思った

各国に思惑がある中で、どのように合意していくかというプロセスを体験できた。その中には公の会議だけでなく、非公式の会合も含まれることを知ることができた。また、レクチャーの中では、国際会議の成り立ちだけでなく、具体的な交渉上の **Tips** を教えていただくことができた。

会議中だけではなく、ランチやコーヒブレイクなどの時間も使って他国への根回しが必要なこと。

関係するすべての国にとっての利益を見つけ出すこと。

外交という観点で、自国の主張をもちつつ、他国との協力関係を考慮しながら、介入することの難しさを感じました。これから貢献できるよう、精進します。

表4. ワークショップ改善点(自由回答)

コメント (自由回答)
オブザーバーにも資料等を事前にご配布いただけると助かりました。
具体的な準備について、もう少し詳細があると助かります。
2日目の negotiations に関する講義は1日目にあっただけが効果的と感じました。
オブザーバーの機会をいただけて良かったです。テキストを修正していくスキルなど、身につけなければならないと理解しました。
Exercise to propose alternative text Learn about examples of effective interventions
資料が多いので1週間以上前には資料をいただきたいです(土日を2回挟むくらい)
特にありません。貴重なワークショップをありがとうございました！
若干名だけでも若手に見学だけの参加ができるようにするのがよい。
おそらく使用されているマイクによって時折聞きづらいことがありました。(内容を理解できないほどではありませんでした。)
1日目の mock up パートで、チームで自国の情報を咀嚼し、主張に落とし込む作業ができる時間がもう少し欲しかった。
非常に楽しく貴重な研修であると思いますので、web からも受講可能であればありがたいと思います。
実際の会議における決議案から決議に至るに当たってどのように内容が変わったのかを知りたかった。
チーム内の相談や二国間協議は日本語でよかった。
グループの人数について：3人でも十分でしたが、二国間協議時に2チームに分かれるには人数が足りず、4人のチームより時間を効率的に使えなかったかもしれません。
事前課題時に決議書の読み方が分からなかったため、中谷先生の講義のうち該当部分を事前配布・または事前録画講義としてご提供いただけると有難いかもしれません。
国際会議の経験が全くない参加者に向けての用語集や基礎資料集のようなものがあると、よりアクティブに参加できるのかなと思いました。

表5. ワークショップ全体に関するコメント(自由回答)

コメント (自由回答)
WS の具体的な内容を分からずに参加しましたが、非常に勉強になり、大変充実した二日間を過ごしました。開催いただきありがとうございました。
大変勉強になりました。 午後のモックアップも、見応えがありました。
今回は貴重な機会をありがとうございました。 現在外務省出向中の身としては、実際外交の現場でどのようなやり取りがされているかを学ぶことが出来、よかったです。 今回の学びを活かせるよう、更に学びを深めたいと思います。
来年以降も開催されるようでしたらぜひ知人にもおすすめてしたいと思います。 スタッフの皆様ありがとうございました！
討議に2日、十分な時間をかけられていたのがとても良かったと思う。
貴重な機会を頂き本当にありがとうございました。Global Healthでのキャリアを考えているので、Closed sessionだからこそお聞きできるお話はとても参考になりました。 また、午後のグループセッションも聴講のみでしたが、実際の難しさが伝わり勉強になりました。もしもいつか機会がありましたら、私も参加者として参加してみたいです。 貴重な機会をありがとうございました。
過去のWSよりも臨場感が増していて、設定などが素晴らしかったです
他国からいろんな意見が出てくるなかで、自国のポジションをしっかりと認識しながら妥協点を見出していくことが難しく、更に勉強したいと思った。大変有意義な時間をありがとうございました。
オブザーバー参加を許していただきありがとうございました。是非次は実際に受講したく思いました。実際にWHOでの活動にさらに興味を持ちましたので、現場の医師がどの様にしてWHOへのキャリアに繋がるかも教えていただきたく思いましたので、その様な質問の機会をいただけますでしょうか？
普段はなかなか関わることのできない職種の方々や、講師の先生方と繋がることができ、議論させていただけたことはとても貴重な経験でした。経験豊富な先生方からのレクチャーも大変勉強になりました。参加させていただきありがとうございました。

■ Speakers and Resource persons list

Prof. Hiroki Nakatani 中谷比呂樹 (日本)
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM
国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター(HRC-GH) センター
長

Prof. Kazuaki MIYAGISHIMA 宮城島一明 (フランス)
Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan
長崎大学 熱帯医学研究所 客員教授

Prof. Haruka Sakamoto 坂元晴香 (日本)
Associate professor, Department of International Cooperation and Tropical Medicine, Tokyo
Women's Medical University
東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座 准教授

Dr. Shinjiro Nozaki 野崎慎仁郎 (フィリピン)
Compliance and Risk Management officer, WHO Western Pacific Regional Office
世界保健機関 西太平洋地域事務所

Dr. Satoshi Ezo 江副聡 (日本)
Ministry of Foreign Affairs, Japan
外務省 国際協力局 国際保健戦略官

Dr. Suwit Wibulpolprasert (タイ)
Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF), Health Intervention and
Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand),
Ministry of Public Health, Thailand

Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (タイ)
Ministry of Foreign Affairs, Thailand

Ms. Tomoko Onoda 小野田知子 (カンボジア)
Health Systems Coordinator, WHO Country Office in Cambodia
世界保健機関 カンボジア事務所 保健システムコーディネーター

Prof. Hiroyasu Iso 磯博康 (日本)
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health
and Medicine (NCGM)
国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センタ
ー(iGHP) センター長

Dr. Tamami Umeda 梅田 珠実 (日本)
Visiting researcher, iGHP, NCGM
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 客員研究員

Dr. Toshiaki Baba 馬場俊明 (日本)
Assistant Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM
国際医療協力局 医師

Dr. Mariko Hosozawa 細澤麻里子 (日本)
Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 主任研究員

Dr. Eiko Saito 齋藤英子（日本）
Senior Research Fellow, iGHP, NCGM
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 上級研究員